

● H20年度以降の取組み

地域の自活を支えるみちづくり (2) 圏域中心都市30分圏人口カバー率

継続的な取組み予定

努力します

平成20年度以降も
更なる向上に取り組めます。

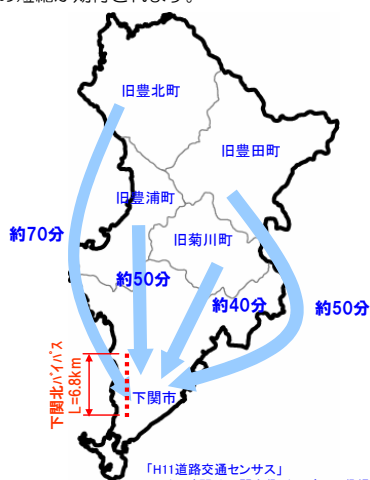


- 幹線道路等の大規模な事業は、短期間での整備が難しいため、集中投資により完成した箇所から部分供用するなど、投資効果の早期発現に向けた取組のさらなる充実を図ります。
- 徹底したコスト管理により、効率的な事業の執行を行い、早期完成に努めます。
- 渋滞すれば圏域中心都市への移動時間が長くなるなど、圏域中心都市30分圏カバー率は渋滞との密接な関係があるため、引き続き効果的な渋滞対策に努めます。

圏域拡大に向けて取組んでいます

191 下関北バイパス

- 下関市は、平成17年2月に1市4町が合併し再編されましたが、旧町から下関市街地への所要時間は30分以上となっています。
- 下関北バイパスは、下関市筋川町から同市安岡駅前二丁目に至る延長6.8kmの道路で、沿岸部の主要幹線道路として工事を進めています。
- 下関北バイパスの整備により、朝夕の慢性的な交通渋滞の緩和や、旧町から下関市街地への所要時間の短縮が期待されます。



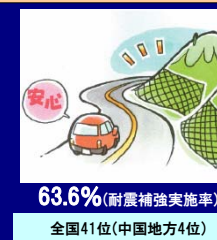
「H11道路交通センサス」
※所要時間は下関市役所及び旧町役場を基準として算出
周辺旧町から下関市街地までの現状の所要時間



下関武久町から豊浦方面を望む

● 道路防災対策の推進

アウトカム指標：③要防災対策箇所の解消率
災害時の安全性を確保する道路整備を示す指標

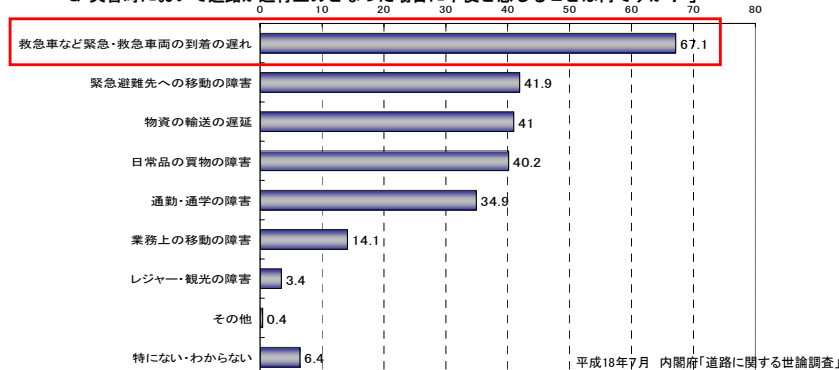


災害に対する意識

▶ 災害による到着の遅れや移動の障害を感じています

道路に関する世論調査 より

「Q:災害時において道路が通行止めとなった場合に不便と感じることは何ですか?」 単位:%



利用者の意識

災害による交通止め実績

▶ 山口県全域で通行止めが多数発生しています

道路災害の現状

平成18年度にも台風や大雨時の崩土や倒木等による被害が出ています。山口県内でも1年間に88箇所の通行止めが発生し、換算すると平均して4日に1回の通行止めが発生しました。

▼ 平成18年度山口県内の通行止め箇所



★：山口県管理の通行止め箇所
★：国土交通省管理の通行止め箇所



現状の分析

山口県の現状と課題

地域の自活を支えるみちづくり (3) 要防災対策箇所解消率